

O-09 限局性前立腺癌に対する高密度焦点式超音波（HIFU）治療の短期臨床成績とQOL

たかの橋中央病院 泌尿器科
神明 俊輔、浅野 耕助、林 睦雄

【目的】限局性前立腺癌に対する高密度焦点式超音波（HIFU）療法の短期臨床成績とQOLを検討した。【対象】Sonablate 500を用いてHIFUを施行した限局性前立腺癌患者101例中、12ヶ月以上の経過観察が可能であった65例（57-82歳）で、観察期間は12-45ヶ月であった。【方法】腰椎麻酔下に直腸から挿入したHIFUプローブより前立腺全体に超音波を照射、加熱した。術後経時的にPSAを測定、6ヶ月後に前立腺生検、MRIを施行し、Geletの治療効果判定に照らして臨床成績を検討した。加えて術前と術後12ヶ月でIPSS、FACT-General、ProstateによりQOLを検討した。【成績】治療回数は73回（8例に2回施行）。Geletの治療効果判定で65例中58例（89.2%）がcomplete response（CR）であった。risk group別ではlow riskで良好な治療成績を得た。HIFU後6ヶ月で前立腺生検を施行した65例では61例が陰性であった。術中術後に重篤な合併症はなく、QOLの検討では性生活の項目を除いて有意な低下はなかった。【結論】限局性前立腺癌に対するHIFU療法は、短期臨床成績で前立腺全摘除術のそれと同等であり、QOLの低下もほとんどなく、安全で有効な治療法と思われた。

O-10 前立腺癌に対するHIFU治療の検討

原三信病院 泌尿器科
野間 秀哉、古賀 寛史、真崎 善二郎、山口 秋人

【目的】当院におけるHIFU治療の成績を報告する。【対象と方法】当院では2003年10月よりHIFU治療を導入している。現在まで75例の患者にのべ99回のHIFUを施行したが、そのうち初回HIFU後6ヶ月以上経過観察可能であった56例を対象とした。平均年齢68.4才（52-80）、治療前PSAは平均10.7ng/ml（2.9-26.4）、StageはT1c 40例、T2a 11例、T2b 4例、T3b 1例、術前ホルモン治療施行は24例（2-22ヶ月）、非施行は32例であった。観察期間は6-40ヶ月（中央値23ヶ月）であった。【結果】56例の患者に対してのべ79回のHIFUを施行した。初回HIFU後56例中44例でPSA再発を認めていない。初回HIFU後PSA再発またはPSA再発がなくても6ヵ月後の生検陽性であった計19例に2回目HIFUを施行した。4例でPSA再発を認め、3例に癌細胞の残存があった。3回目HIFUは4例に施行した。HIFU無効と考えられた症例には手術（1例）、ホルモン治療（6例）、ホルモン治療+放射線治療（2例）を行った。HIFU後のカテーテル留置期間は中央値17日（12-34）。重篤な合併症として尿道直腸瘻を3回目HIFUの直後に1例経験した。その他は尿道狭窄9例、精巣上体炎4例、軽度尿失禁3例、カテーテル抜去後尿閉5例などであった。【結語】HIFUは前立腺癌治療のひとつのオプションになり得ると考えられた。安全に施行可能であるが、複数回HIFUの場合注意を要すると思われた。